

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年 1月 23日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	障害のある人の学びの場に関する特別研究委員会
新規、継続の種別	新規 継続
申請者（委員長） 氏名、所属	菅原麻衣子 東洋大学福祉社会デザイン学部
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（職場） 〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11 Tel. 03-5924-2259 sugawara@toyo.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員 柳尚吾（関西学院大学建築学部） 記伊実香（早稲田大学大学院社会科学研究所） 神門侑子（日本女子大学建築デザイン学部） オブザーバー委員 ※会員外 川端舞（東京インクルーシブ教育プロジェクト・代表） 堀口智子（渋谷区手をつなぐ親の会・会長） 浮川祐希（早稲田大学アクセシビリティ支援センター・常勤コーディネーター） オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 推薦理由：本研究活動において障害当事者やその支援者の声を反映させることが必須であるため
公募枠の予定数	3名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	I. スタートアップ型（予算上限2万円/年） II. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年） III. シンポ・出版展開型（予算上限5万円/年）
研究目的と 主な研究事業	障害権利条約第24条教育には「締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。」と謳っている。しかしながら、日本は2023年の国連・障害者権利委員会からいまだ分離教育が続いているとの厳しい指摘を受け、実際に学校教育においては特別支援学級・特別支援学校の数が増え続けている。 この問題に対し、国内ではインクルーシブ教育の重要性や在り様を議論する場が各所で開かれているが、その実現にあたっては既存の学校教育制度や学校施設環境の枠組みでは現実的に難しいといった課題が多々挙がる。一方で特別支援教育の必要性や重要性を取りあげる声もあり、今後の道筋や方策が見えにくい。結果、学校教育では障害の有無によらず共に学ぶ機会が促されることは少なく、大人の学びの場となる生涯学習やリスクリングにおいても類似の問題をはらんでいると考えられる。 これに対し本研究では、障害のある子どもや大人の学びの場について、共に学ぶ好事例や、学びの機会を平等に提供する先進事例を中心に広く情報収集に取り組む。そして、どうすればよりよい学びの場を実現できるかという、「実現できる」を促す情報提供や分析を進め、公開研究会や研究討論会を通じて広く学会員と共有し、議論を深めていく。
予算	（初年度分） 【収入】 本部支援費 30,000円 セミナー参加費 23,000円（1回） 情報保障費（本部支援） 27,500円（1回） （初年度分） 計 77,500円 （次年度分） 同上 計 77,500円

	2年間計	155,000 円
	【支出】	
	講師謝金	10,000 円×2 回 計 20,000 円
	講師交通費	10,000 円 (1 回)
	情報保障費 (参加費より捻出)	23,000 円 (手話通訳 1 回)
	情報保障費 (本部より支給)	27,500 円 (文字配信 1 回)

	(初年度分)	計 77,500 円
	(次年度分) 同上	計 77,500 円

	2年間計	総計 155,000 円
その他特記事項	ナシ	

<参考>

要約筆記 (チームウエストさんに依頼した場合) : ¥11000/時間+準備費¥11000/時間 (概ね開始前に30分必要となります。) 27500*2

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話 (東京手話通訳など派遣センター) : 例) ¥11500/2時間×2名=¥23000 (2時間)

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費 : 例) ¥2500~¥2700 (税別) /時間・1人

ZOOM ウェビナー : 5600円+消費税/1か月

（この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	続・身体と空間特別研究委員会
新規、継続の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続
申請者（委員長） 氏名、所属	原 利明 鹿島建設（株）建築設計本部
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（職場） 〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30 TEL：03-5561-2111（大代） e-mail： thara@kajima.com / toshinao@coda.ocn.ne.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員 松田雄二氏（東京大学大学院工学系研究科） 伊藤納奈氏（産業技術総合研究所人間情報インタラクション研究部門） 太田篤史氏（中島龍興照明デザイン研究所） 船場ひさお氏（駿河台大学/こどものための音環境デザイン） 矢野喜正氏（矢野住環境研究所） 伊藤精英氏（函館みらい大学） 平井百香氏（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 武者 圭氏 オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 久保田 昭子氏（鹿島出版会） 推薦理由： 本特別研究委員会は、2020年に出版した「ユニバーサルデザインの基礎と実践（鹿島出版会）」の続編を出版することを目的としている。そのため、当時の編集者である久保田氏に当初より参画をいただき、出版に対するアドバイスをもらうためにオブザーバー委員を依頼するものである。
公募枠の予定数	若干名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	I. スタートアップ型（予算上限2万円／年）
研究目的と 主な研究事業	【目的】 2020年に出版した「ユニバーサルデザインの基礎と実践（鹿島出版会）」で書ききれなかったことや、出版以降に課題となってきた事象に関するデザイン手法や計画論を広く社会に問いかけるため、続編を出版することとした。 前書の続編とすることから、編者を前書と同名としたいため、特別研究委員会名称を以前と同じとした。 【主な事業】 上記の目的を遂行するため、以下の事業を計画する。 <2025年度> 前書に対する読者の意見などを続編に反映させるためのプロセスを行う。 更に、前書で取り上げられていない対象者に関するセミナーなども開催し、書籍の構成を検討する。 <2026年度> 2025年度に引き続き、前書で取り上げられていない対象者に関するセミナーなどを開催し、書籍の構成を検討し、執筆を開始（予定）。 。

予算	【2025年度】 <収入> 本部活動支援費：¥20,000 公開研究会参加費：¥1,000×20名×2回＝¥40,000 情報保障費（本部支援費）：¥48,400 合計：¥108,400 <支出> 講師謝金：¥10,000×2回＝¥20,000 会場費：¥20,000×2回＝¥40,000 情報保障費：¥12,100×2時間×2回＝¥48,400 合計：¥108,400 【2026年度】 同上 2年間収入合計：¥216,800 2年間支出合計：¥216,800
	その他特記事項

特別研究委員会申請用紙 記入上の注意

予算については大枠でなく、下記のように具体的に示してください。

(初年度分)

【収入】

本部支援費	** ,***円		
セミナー参加費	** ,***円×3回		** ,***円
情報保障費（本部支援）	** ,***円×1回		** ,***円

(初年度分)	計	** ,***円
--------	---	----------

(次年度分)	計	** ,***円
--------	---	----------

2年間計	** ,***円
------	----------

【支出】

会場費	** ,***円×3回	** ,***円	
講師謝金	** ,***円×3回	** ,***円	
講師交通費	** ,***円×3回	** ,***円	
情報保障費（参加費より捻出）	** ,***円×2回	** ,***円	** ,***円
情報保障費（本部より支給）	** ,***円×1回	** ,***円	** ,***円
郵送、通信費		** ,***円	
資料印刷費		** ,***円	
ホームページ維持費		** ,***円	

(初年度分)	計	** ,***円
--------	---	----------

(次年度分)	計	** ,***円
--------	---	----------

2年間計	** ,***円
------	----------

<参考>

要約筆記（チームウエストさんに依頼した場合）：¥11000/時間+準備費¥11000/時間（概ね開始前に

30分必要となります。)

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話 (東京手話通訳など派遣センター) : 例) ¥11500/2時間×2名 = ¥23000 (2時間)

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費 : 例) ¥2500~¥2700 (税別) /時間・1人

ZOOM ウェビナー : 5600円+消費税/1か月

特別研究委員会名称	障害のある人の権利意識に関する特別研究委員会
新規、継続の種別	継続
申請者（委員長） 氏名、所属	丹羽 菜生 中央大学研究開発機構 機構准教授
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（職場） 〒112-8551 文京区春日 1-13-27 中央大学研究開発機構 電話：03-3817-1609 n-niwa@tamacc.chuo-u.ac.jp
委員長推薦委員と所属 （五十音順）	岩本 あき子（公益財団法人日本財団） 岩本 一郎（北星学園大学） 川内 美彦（東洋大学人間科学総合研究所） 古瀬 敏（フリーランス） 永元 真也（(株)アルメック VPI） 丹羽 太一（東京大学） 日野 晶子（株式会社 LIXIL） 蒔苗 詩歌（北星学園大学） 武者 圭（UDNJ） 村田 淳（京都大学） オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・尾上 浩二（DPI 日本会議）推薦理由：障害者運動の全国的なリーダーであり、内閣府障害者政策委員会委員の経験もあり、この分野に詳しい。 ・関哉 直人（五百蔵洋一法律事務所、弁護士）推薦理由：障害のある人の差別事例に詳しく、弁護士として法や制度について専門的立場からの意見を聞くことができる。 ・佐藤 聡（DPI 日本会議）推薦理由：障害者運動の全国的なリーダーであり、DPI 事務局長として現状で直面している諸課題に詳しい。 ・殿岡栄子（全国障害学生支援センター）推薦理由：全国障害学生支援センターの事務局長であり、長年学生支援を直接的担われてきた実績をお持ちであることから、専門的立場からの意見を聞くことができる。
公募枠	10名程度
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリーを削除してください。）	Ⅱ. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	<p>2006年（平成18年）に国連で制定された障害者権利条約（以下、権利条約）は、「障害の社会モデル」の概念とともに、個別の障害に応じた「合理的配慮」の提供を明確に示した。権利条約第24条では、障害のある人の教育に関する権利について規定されており、学問的・社会的な発達を最大化できる環境のもとで、完全な包摂（インクルージョン）を目指し、個別化された支援措置が確保されることが求められている。</p> <p>日本は2014年に権利条約を批准し、それから9年が経過した現在、大学においても障害のある学生を支援する部署の設置など、さまざまな取り組みが進められている。</p> <p>障害のある学生を受け入れる大学側の取り組みに関しては、日本学生支援機構や全国障害学生支援センター、文部科学省などが詳細な実態調査を実施している。また、筑波大学の研究者らは、重度障害のある学生への支援の在り方を検討するため、支援を必要とする学生の現状や支援ニーズに関する調査を行っている。しかし、これまでの研究は、制度や仕組みに焦点を当てたものが多く、障害のある学生自身が大学生活の中で受ける支援をどのように捉えているのかといった当事者視点に基づく研究はほとんど行われていない。</p>

	<p>い。</p> <p>本特別研究委員会では、障害者権利条約の理念に基づき、「障害のある学生が大学側から支援を受けることは権利である」という認識が大学内で共有されているかを調査することを目的とする。</p> <p>前期の調査では、権利意識を持つ学生と持たない学生では、大学生活の質に大きな差が生じることが、ヒアリング調査から示唆された。また、学生が権利意識を持ち、自らの権利を主張できるようになるためには、学生と教員をつなぐ「支援室」の役割が重要であることも、研究討論会の結果から明らかになった。</p> <p>2024年からは、大学における合理的配慮の提供が義務化されたことを受け、各大学では対応が進められている。今期は、バリアを生まない環境を構築するために、大学の支援室が果たすべき具体的な役割と学生との関係を明らかにする。そして、「学ぶための支援」が、支援する側・支援を受ける側の双方にとって「障害のある学生の当たり前の権利」であると認識される環境のあり方を探る。</p>																																													
<p>予算</p>	<p>以上の活動のため、ヒアリング（10名程度）と年1回程度の研究会の開催を行う。</p> <p>（初年度分）</p> <p>【収入】</p> <table border="1" data-bbox="459 880 1273 1243"> <tr> <td>本部支援費</td> <td>30,000円</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>セミナー参加費</td> <td>1000円×30人</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>情報保障費（本部支援）</td> <td>11,000円×2時間</td> <td>22,000</td> </tr> <tr> <td>（初年度分）</td> <td>計</td> <td>82,000</td> </tr> <tr> <td>（次年度分）</td> <td>計</td> <td>82,000</td> </tr> <tr> <td>2年間計</td> <td>計</td> <td>164,000</td> </tr> </table> <p>【支出】</p> <table border="1" data-bbox="459 1355 1273 1861"> <tr> <td>会場費</td> <td>5,000円</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>講師謝金</td> <td>10,000円×2名</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>ヒアリング謝金</td> <td>20,000円×10名</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>講師交通費</td> <td>10,000</td> <td>10,000</td> </tr> <tr> <td>情報保障費（参加費より捻出）</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>情報保障費（本部より支給）</td> <td>11,000円×2時間</td> <td>22,000</td> </tr> <tr> <td>通信費・印刷費</td> <td>2,000円</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>資料印刷費</td> <td>3,000円</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>（初年度分）</td> <td>計</td> <td>82,000</td> </tr> </table>	本部支援費	30,000円	30,000	セミナー参加費	1000円×30人	30,000	情報保障費（本部支援）	11,000円×2時間	22,000	（初年度分）	計	82,000	（次年度分）	計	82,000	2年間計	計	164,000	会場費	5,000円	5,000	講師謝金	10,000円×2名	20,000	ヒアリング謝金	20,000円×10名	20,000	講師交通費	10,000	10,000	情報保障費（参加費より捻出）	0	0	情報保障費（本部より支給）	11,000円×2時間	22,000	通信費・印刷費	2,000円	2,000	資料印刷費	3,000円	3,000	（初年度分）	計	82,000
本部支援費	30,000円	30,000																																												
セミナー参加費	1000円×30人	30,000																																												
情報保障費（本部支援）	11,000円×2時間	22,000																																												
（初年度分）	計	82,000																																												
（次年度分）	計	82,000																																												
2年間計	計	164,000																																												
会場費	5,000円	5,000																																												
講師謝金	10,000円×2名	20,000																																												
ヒアリング謝金	20,000円×10名	20,000																																												
講師交通費	10,000	10,000																																												
情報保障費（参加費より捻出）	0	0																																												
情報保障費（本部より支給）	11,000円×2時間	22,000																																												
通信費・印刷費	2,000円	2,000																																												
資料印刷費	3,000円	3,000																																												
（初年度分）	計	82,000																																												
<p>その他特記事項</p>																																														

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年2月6日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	市民参加のデザイン特別研究委員会
新規、継続の種別	継続
申請者（委員長） 氏名、所属	委員長：長野博一・高崎経済大学（専門：都市政策・都市計画）
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（職場） 〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300 番地 027-344-7885（研究室） / nagano@tcue.ac.jp
委員長推薦委員と所属	<p>推薦委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別府知哉 八千代エンジニアリング㈱ <副委員長>（まちづくり） ・江守 央 日本大学（3D都市モデル、土木デザイン） ・小柳達也 尚美学園大学（社会福祉、福祉政策） ・北野知裕 浜銀総合研究所（建築計画、まちづくり） ・庄子美優紀 八千代エンジニアリング㈱（交通計画、UD） ・杉崎和久 法政大学（都市計画、まちづくり） ・田中絵里子 日本大学（地理学、観光学） ・原 利明 鹿島建設㈱（空間認知、UD、ロービジョン） <p>オブザーバー委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西村紘明 国土交通省住宅局（バリアフリー政策） <p>オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。</p> <p>推薦理由：国土交通省総合政策局バリアフリー政策課課長補佐として国内外のバリアフリー・ユニバーサルデザイン政策に関する事例研究を行い、かつ政策づくりを実行していた西村氏に、本委員会へオブザーバー委員として推薦します。西村氏に加入いただくことで、すでに着手している事例集作成・出版に対し重要な視点を盛り込むことに繋げ、研究の質の向上を図ることを狙いとします。</p>
公募枠の予定数	若干名
応募カテゴリー	Ⅱ. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	<p>本研究委員会では、市民参加の具体的事例を用いて参加のデザイン手法を研究し、福祉のまちづくりにおける市民参加の多様性と社会環境づくりへ向けた問題提起を行なっていきます。また、バリアフリーマスタープラン・基本構想制度を踏まえたプランニング技術向上のための支援手法を深めると同時に、地勢を踏まえたバリアフリー政策を国交省と連携し、研究を深めていきます。今期は、これまでの研究委員会活動の終着として、「(仮)市民参加によるバリアフリー政策事例集」と題した出版物の発行を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) バリアフリー政策事例集作成・出版、およびセミナー開催 (2) 公開研究会の開催 年1～2回程度 (3) 各種勉強会の実施 年数回程度 (4) バリアフリーマスタープラン・基本構想の事例検証と策定支援 (5) 他委員会、および他学会の専門委員会とも随時連携

<p>予算</p>	<p>【収入】 本部支援費 30,000 円 ※申請内訳：情報保障費 手話通訳：23,000 円×1 回 保育：7,000 円<2 人分を概算で> 外部研究費 120,000 円（代表者の研究費を充当） セミナー参加費 30,000 円×1 回（単価 1,000 円×30 名で計算）</p> <p>（初年度分） 計 50,000 円 （次年度分） 計 130,000 円</p> <hr/> <p>2 年間計 180,000 円</p> <p>【支出】 <2025 年度> ・オンライン研究会講師謝金（個人研究費充当） 20,000 円 （10,000 円×1 人×2 回） ・資料印刷費等（個人研究費充当） 10,000 円 ・事例集作成勉強会費等（個人研究費充当） 20,000 円</p> <hr/> <p>（2025 年度分） 計 50,000 円</p> <p><2026 年度> ・講師謝金 20,000 円×1 人×1 回（個人研究費充当） 20,000 円 ・講師交通費 10,000 円×1 人×1 回（個人研究費充当） 10,000 円 ・セミナー会場費 30,000 円×1 回（参加費から捻出） 30,000 円 ・資料印刷費等（個人研究費充当） 10,000 円 ・事例集作成勉強会費等（個人研究費充当） 20,000 円 ・通信費等（Zoom ウェビナー等）（個人研究費充当） 10,000 円 ・情報保障費（本部支援） 30,000 円</p> <hr/> <p>（2026 年度分） 計 130,000 円</p> <p>※研究会に係る経費は、申請者の外部資金を充当します。学会本部からは情報保障に係る費用について、申請いたします。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>活動場所：関東（都内及び近郊） 特色：学会員ではない専門家、国の担当官等を招いての公開研究会や、先進自治体の取組み視察、積極的に活動している市民組織・任意団体等を招いてのイベントなどを実施予定。学際的に取り組む 委員構成：推薦委員以外の委員は公募による（若干名）。コアメンバー含め学際的な人材チームを編成</p> <p>予 定：2 カ年の予定は下記のとおり （2025 年度） ・オンライン公開研究会：2 回程度を予定 ・事例集について、担当委員による執筆とまとめ作業を随時行なう ※事例集の制作は榊創成社と相談中 （2026 年度） ・本委員会の締めくくりとして、事例集出版セミナーを実施予定</p> <p>※コアメンバーおよびオブザーバーは個々に取組み事例等を持っているので、それらを中心に議論を展開し、事例集作成・出版へと移行。</p>

<参考>

要約筆記（チームウエストさんに依頼した場合）：¥11000/時間+準備費¥11000/時間（概ね開始前に30分必要となります。）

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話（東京手話通訳など派遣センター）：例）¥11500/2時間×2名＝¥23000（2時間）

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費：例）¥2500～¥2700（税別）/時間・1人

ZOOM ウェビナー：5600円+消費税/1か月

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年 2月7日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	子育て・子育てまちづくり特別研究委員会
新規、継続の種別	新規 継続
申請者（委員長） 氏名、所属	中山恵（子育て支援S A Nの会 018・東京立正短期大学）
申請者 住所、電話、 メールアドレス	(職場) 自宅) ■ 住所 〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15 ■ 電話 03-3313-5101 ■ メールアドレス nakayama-me@tokyorissho.ac.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員 植田瑞昌（日本女子大建築デザイン学部） 生越雅志（船橋情報ビジネス専門学校） 大塚順子（東京通信大学人間福祉学部） 大森宣暁（宇都宮大学地域デザイン科学部） 寺内義典（国士舘大学理工学部） 中山恵（子育て支援S A Nの会 018・東京立正短期大学） 蓑輪裕子（聖徳大学短期大学部） 牟田聡子（日本大学理工学部） 長谷川万由美（宇都宮大学教育学部） 山崎晋（日本大学理工学部）
	オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。
	推薦理由：
公募枠の予定数	5 名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	I. スタートアップ型（予算上限2万円/年） II. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年） III. シンポ・出版展開型（予算上限5万円/年）
研究目的と 主な研究事業	子育て・子育てまちづくり特別研究委員会では、すべての子どもの育ちと子育てをする人、支援する人、地域交流など、子どもとその親を取り巻く環境をまちづくりの視点で調査・研究を行ってきた。さらに、子育て・子育てバリアフリー教室の開催など啓発活動も行ってきた。活動を始めてから20年近く経過しているため、時代の変化とともに子育て・子育てまちづくりについて記録を残しつつ、今後のまちづくりの参考となる資料を作成する必要があると考えている。今期は、さらなる情報収集を行いつつ、今の時代に合わせた子育て環境について引き続き勉強会を行う。 ■主な研究事業： ・子育て・子育てまちづくり環境に関する資料の作成（書籍化たたき台） ・勉強会 年1から2回開催予定 （勉強会には子育て当事者が多く集える工夫を行う） ・セミナー 年1回開催 ・そのほか、見学会やアンケート調査など書籍化に向け追加情報を収集する予定

予算	(初年度分)			
	【収入】			
	本部支援費	30,000 円		
	セミナー・勉強会参加費	500 円×20 人×2 回	20,000 円	
	情報保障費 (本部支援)	23,000 円×1 回	23,000 円	
	(初年度分)	計	73,000 円	
	(次年度分)	計	73,000 円	
	-----			2 年間計
			146,000 円	
	【支出】			
会場費	3,000 円×1 回	3,000 円		
講師謝金	10,000 円×2 人	20,000 円		
情報保障費 (本部より支給)	23,000 円×1 回			
保育費 (参加費より捻出)	3,000 円×3 時間×1 人	9,000 円		
書籍化とりまとめアルバイト	1,000 円×18 時間×1 人	18,000 円		
(初年度分)	計	73,000 円		
(次年度分)	計	73,000 円		
-----			2 年間計	
		146,000 円		
その他特記事項				

特別研究委員会申請用紙 記入上の注意

予算については大枠でなく、下記のように具体的に示してください。

(初年度分)			
【収入】			
本部支援費	** ,***円		
セミナー参加費	** ,***円×3 回	** ,***円	
情報保障費 (本部支援)	** ,***円×1 回	** ,***円	
(初年度分)	計	** ,***円	
(次年度分)	計	** ,***円	

2 年間計		** ,***円	
【支出】			
会場費	** ,***円×3 回	** ,***円	
講師謝金	** ,***円×3 回	** ,***円	
講師交通費	** ,***円×3 回	** ,***円	
情報保障費 (参加費より捻出)	** ,***円×2 回	** ,***円	** ,***円
情報保障費 (本部より支給)	** ,***円×1 回	** ,***円	** ,***円
郵送、通信費		** ,***円	
資料印刷費		** ,***円	
ホームページ維持費		** ,***円	

(初年度分) 計 ** , *** 円

(次年度分) 計 ** , *** 円

2年間計 ** , *** 円

<参考>

要約筆記 (チームウエストさんに依頼した場合) : ¥11000/時間+準備費¥11000/時間 (概ね開始前に30分必要となります。)

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話 (東京手話通訳など派遣センター) : 例) ¥11500/2時間×2名 = ¥23000 (2時間)

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費 : 例) ¥2500~¥2700 (税別) /時間・1人

ZOOM ウェビナー : 5600円+消費税/1か月

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年2月7日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	読書バリアフリー法と図書館の存在意義を考える勉強会
新規、継続の種別	新規
申請者（委員長） 氏名、所属	松原 淳 （特定非営利活動法人）健やかまちづくり
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（自宅）〒142-0061 品川区小山台 2-2-2 Tel:080-5481-7964 222matsubara@gmail.com
委員長推薦委員と所属	推薦委員はなし
	オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。
	推薦理由：
公募枠の予定数	19名
応募カテゴリー	I. スタートアップ型（予算上限2万円/年）
研究目的と 主な研究事業	<p>読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）は障害者の権利に関する条約や障害者基本法の理念に則って、障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的とするものである。法律の対象者は視覚障害者、読字に困難がある発達障害者、寝たきりや上肢に障害がある等の理由により、書籍を持つことやページをめくることが難しい、あるいは眼球使用が困難である身体障害など多岐に渡る。</p> <p>「障害者の権利に関する条約」を批准するために、2011年8月障害者基本法の改正、2013年6月障害者差別解消法の制定をはじめとする様々な国内法制度が整備された。2013年6月27日には世界知的所有権機関（WIPO）による、「盲人、視覚障害者その他の印刷物の判読に障害のある者が発行された著作物を利用する機会を促進するためのマラケシュ条約」も採択された。しかし障害者が読書可能な本の数は発展途上国で全体の1%先進国で7%と推計されているが我が国は3%程度と推計される。</p> <p>読書バリアフリー法の基本的な方針では視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮が求められている。そのためには様々な読書困難者に対して一層、図書館の役割が大きいと認識できるが、図書館の役割は今や「無料貸本屋」と言われるだけでなく、資料や情報を収集・保存・提供することで、人々の教養や調査研究、レクリエーションなどの幅広いニーズに応える実態になっている。</p> <p>図書館の機能としては①資料の収集・整理・保存、②資料の貸出やレファレンスサービス、③地域に関する情報の提供、④ビジネスや学習の支援、⑤研修やお話会などのイベントの開催、⑥集会や行事の開催など単なる図書の貸し出し、閲覧に止まらない。</p> <p>よって図書館の役割は①人類の知的遺産を保存し活用する、②知識や情報を伝播するコミュニケーションの媒介機関として機能する、③読書習慣を培い、本を読む楽しさを知る機会を提供する、④政治的、社会的な問題などに対するさまざまな思想・見解に接する機会を提供する、⑤自分の住む地域における課題解決に役立つ資料に接する機会を提供することなどがあり、障害の有無にかかわらず人間生活を豊かにする為には必要不可欠であると認識できる。</p> <p>しかし、実際には障害によって利用に壁があるなど、バリアフリーの観点から幅広い利用と活用ができていないか疑問もある。</p> <p>そこで本研究会では福祉のまちづくりの視点から①図書バリアフリー法の現状を学ぶ、②図書館の実態と課題を議論する勉強会を開催する。</p>

予算	2025年度		
	【収入】		
	本部支援費	20,000 円	20,000 円
	情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円
			計 64,000 円
	【支出】		
	情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円
	ZOOM ウェビナー	5,600 円×2 回	11,200 円
	郵送、通信費		800 円
	講演謝金	8,000 円×1 回	8,000 円
			計 64,000 円
	2026年度		
	【収入】		
	本部支援費	20,000 円	20,000 円
	情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円
		計 64,000 円	
【支出】			
情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円	
ZOOM ウェビナー	5,600 円×2 回	11,200 円	
郵送、通信費		800 円	
講演謝金	8,000 円×1 回	8,000 円	
		計 64,000 円	
その他特記事項	委員は全て公募とし、応募者がいない場合は本研究委員会は辞退する。		

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年 2月 7日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	重度障害のある人たちの仕事創出に関する特別研究委員会
新規、継続の種別	新規
申請者（委員長） 氏名、所属	ヒラヤマ アキヒト（バリアフリーアナリスト）
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（自宅） 〒455-0845 名古屋市港区野跡4丁目1 みなと荘1棟1205号室 電話：090-1109-3888 メール：gifutry38@gmail.com
委員長推薦委員と所属	推薦委員 池田 典弘 池田技術士事務所 磯部 友彦 中部大学 嶋田 喜昭 大同大学 樋口 恵一 大同大学 原 利明 鹿島建設 水谷 真 AJU 自立の家 わだちコンピュータハウス 三村 泰広 大分大学 山岡 俊一 豊田工業高等専門学校 厚谷 祐司 IT パスポート LINE チャット管理者 オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 推薦理由：
公募枠の予定数	7名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	Ⅱ. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	<p>本特別研究委員会は、「障害のある人の就労に関する特別研究委員会」（以下「働き方特別研究委員会」と略す）を引き継ぐものである。働き方特別研究委員会では障害のある人たちに就労を取り巻く問題が多数浮き彫りになった。他方、以下の近年障害のある人たちの就労を取り巻く環境については十分な議論ができなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者雇用率」を稼ぐために特例子会社を作る一般企業が少なくない。さらに雇用率を上昇させるビジネスまで出ている。 ・就労支援事業所の数は市町村の障害福祉計画で数値目標が決まっているものの、極めて単純な作業を提供するにとどまる就労支援事業所が雨後の筍のように作られている。 <p>以上の環境下で「障害のある人たちが能力を遺憾なく発揮して仕事をしているか」ということに疑問を抱く。</p> <p>さらに、重度の身体障害のある人は上肢や言語に障害があり、単純作業は適さない。また、一般企業や就労支援事業所では軽度の障害のある人向け仕事が多いことから、重度の知的障害も少ないのが現状がある。そういった重度障害のある人たちの仕事を考える必要がある。</p> <p>特別支援学校出の障害のある人たちは一般企業には就職しづらい現状がある。この原因として「障害のない人と遊ぶ、ともに育つ、ともに働く」という対人経験が少ないことが挙げられるだろう。また、障害のない人たちは「バイト」を通じて就職するスキルが育まれると思うが、障害のある人たちは容易にバイトができる場所がないなど社会経験も少ない場合が多い。</p> <p>他方、障害のある人たちの中には、就労支援事業所では「賃金が安</p>

	<p>く」ことから働きたくないという意思を持つ方がいる。さらに就労支援事業所では、障害のある人たちは「利用者」、障害のない人たちは「職員」という立場の違いが生じ、「ともに働いている」ことを実感する機会が極めて乏しい。これらの現状を改善する新たな仕組みを考える必要がある。この一つにイタリアで考え出された「社会的協同組合」という仕組みがある。これは、「社会的協同組合は、市民の、人間としての発達および社会参加についての、地域における普遍的な利益を追求することを目的としている」とイタリアの社会的協同組合法で記されている。つまり、地域社会の中で、ハンディを負う人のみならず、あらゆる市民の「発達」と「参加」を保障していくこと、すなわち公益的性格づけがなされていることがこの協同組合の特徴の第一である。この社会的協同組合が障害のある人たちの働き方において有効な手段である。</p> <p>そこで本委員会では、以下の2つのテーマで研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業等で「障害のある人たちが能力を活かせる働き方」を実現する方法を研究する。 2. イタリアの「社会的協同組合」に学びながら「共に働く」という理念を行かす道筋について検討する。 																																																
<p>予算</p>	<table border="0"> <tr> <td>【収入】</td> <td>初年度</td> <td>次年度</td> </tr> <tr> <td>本部支援費</td> <td>30,000円</td> <td>30,000円</td> </tr> <tr> <td>セミナー参加費(1,000円×40名)</td> <td>40,000円</td> <td>40,000円</td> </tr> <tr> <td>情報保障費(本部支援)</td> <td>26,400円</td> <td>26,400円</td> </tr> <tr> <td>(初年度分)</td> <td>計</td> <td>96,400円</td> </tr> <tr> <td>(次年度分：初年度と同様)</td> <td>計</td> <td>96,400円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">-----</td> </tr> <tr> <td>2年間計</td> <td colspan="2">172,800円</td> </tr> <tr> <td>【支出】</td> <td>初年度</td> <td>次年度</td> </tr> <tr> <td>会場費</td> <td>10,000円</td> <td>10,000円</td> </tr> <tr> <td>講師謝金</td> <td>20,000円</td> <td>20,000円</td> </tr> <tr> <td>講師交通費</td> <td>10,000円</td> <td>10,000円</td> </tr> <tr> <td>情報保障費</td> <td>46,400円</td> <td>46,400円</td> </tr> <tr> <td>資料印刷費</td> <td>10,000円</td> <td>10,000円</td> </tr> <tr> <td>(初年度分)</td> <td>計</td> <td>96,400円</td> </tr> <tr> <td>(次年度分：初年度と同様)</td> <td>計</td> <td>96,400円</td> </tr> </table>	【収入】	初年度	次年度	本部支援費	30,000円	30,000円	セミナー参加費(1,000円×40名)	40,000円	40,000円	情報保障費(本部支援)	26,400円	26,400円	(初年度分)	計	96,400円	(次年度分：初年度と同様)	計	96,400円	-----			2年間計	172,800円		【支出】	初年度	次年度	会場費	10,000円	10,000円	講師謝金	20,000円	20,000円	講師交通費	10,000円	10,000円	情報保障費	46,400円	46,400円	資料印刷費	10,000円	10,000円	(初年度分)	計	96,400円	(次年度分：初年度と同様)	計	96,400円
【収入】	初年度	次年度																																															
本部支援費	30,000円	30,000円																																															
セミナー参加費(1,000円×40名)	40,000円	40,000円																																															
情報保障費(本部支援)	26,400円	26,400円																																															
(初年度分)	計	96,400円																																															
(次年度分：初年度と同様)	計	96,400円																																															

2年間計	172,800円																																																
【支出】	初年度	次年度																																															
会場費	10,000円	10,000円																																															
講師謝金	20,000円	20,000円																																															
講師交通費	10,000円	10,000円																																															
情報保障費	46,400円	46,400円																																															
資料印刷費	10,000円	10,000円																																															
(初年度分)	計	96,400円																																															
(次年度分：初年度と同様)	計	96,400円																																															
<p>その他特記事項</p>																																																	

特別研究委員会申請用紙 記入上の注意

予算については大枠でなく、下記のように具体的に示してください。

(初年度分)

【収入】

本部支援費 **,***円
 セミナー参加費 **,***円×3回 **,***円
 情報保障費(本部支援) **,***円×1回 **,***円

(初年度分) 計 ** ,***円

(次年度分) 計 ** ,***円

2年間計 ** ,***円

【支出】

会場費	** ,***円×3回	** ,***円	
講師謝金	** ,***円×3回	** ,***円	
講師交通費	** ,***円×3回	** ,***円	
情報保障費 (参加費より捻出)	** ,***円×2回	** ,***円	** ,***円
情報保障費 (本部より支給)	** ,***円×1回		** ,***円
郵送、通信費	** ,***円		
資料印刷費	** ,***円		
ホームページ維持費	** ,***円		

(初年度分) 計 ** ,***円

(次年度分) 計 ** ,***円

2年間計 ** ,***円

<参考>

要約筆記 (チームウエストさんに依頼した場合) : ¥11000/時間+準備費¥11000/時間 (概ね開始前に30分必要となります。)

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話 (東京手話通訳など派遣センター) : 例) ¥11500/2時間×2名=¥23000 (2時間)

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費 : 例) ¥2500~¥2700 (税別) /時間・1人

ZOOM ウェビナー : 5600円+消費税/1か月

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第6期）申請用紙 提出日：2025年 2月 7日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	アートと福祉のまちづくり
新規、継続の種別	継続
申請者（委員長） 氏名、所属	宇都宮大学共同教育学部 長谷川万由美
申請者 住所、電話、 メールアドレス	職場 〒321-8505 宇都宮市峰町 350
委員長推薦委員と所属	推薦委員 小山聡子（日本女子大学人間社会学部社会福祉学科） 田中賢（日本大学理工学部まちづくり工学科） オブザーバー委員 ※会員外
	オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 推薦理由：
公募枠の予定数	10 名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	Ⅱ. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	<p>障害者による文化芸術活動の推進に関する「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の施行(平成30年6月)などに見られるように従来は表現者としてメインストリームとは考えられてこなかった障害者や高齢者などによる表現活動を社会がバックアップする傾向が顕著になってきている。</p> <p>一方で、芸術を鑑賞する点においても令和4年の博物館法の改正の視点の一つとして、施設や展示手法のバリアフリー化が盛り込まれるなど、鑑賞のユニバーサルデザインが模索されている。</p> <p>本委員会では、このような表現者、鑑賞者双方の立場でのアートのバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の現状を把握するとともに、障害当事者による芸術活動への主体的参加がもたらす社会変革の可能性について、福祉のまちづくりの観点から、考えることを目的とする。</p> <p>最初の2年は年に1回の学習会を行い、委員だけでなく学会員、一般の参加も得て、意見交換を行うことができた。今期はその活動を踏まえ、さらに対象とする領域や内容を拡大して活動を深めていきたい。</p>
予算	<p>（初年度分）</p> <p>【収入】</p> <p>本部支援費 30,000 円 セミナー・勉強会参加費 500 円×20 人×2 回 20,000 円 情報保障費（本部支援） 23,000 円×1 回 23,000 円</p> <p>（初年度分） 計 73,000 円 （次年度分） 計 73,000 円</p> <p>----- 2年間計 126,000 円</p> <p>【支出】</p> <p>講師謝金 10,000 円×6 人 60,000 円 情報保障費（本部より支給） 23,000 円×1 回</p> <p>-----</p> <p>（初年度分） 計 73,000 円 （次年度分） 計 73,000 円</p> <p>----- 2年間計 126,000 円</p>
その他特記事項	

--	--

特別研究委員会申請用紙 記入上の注意

予算については大枠でなく、下記のように具体的に示してください。

(初年度分)

【収入】

本部支援費	** ,***円		
セミナー参加費	** ,***円×3 回	** ,***円	
情報保障費 (本部支援)	** ,***円×1 回		** ,***円

(初年度分) 計 ** ,***円

(次年度分) 計 ** ,***円

2 年間計 ** ,***円

【支出】

会場費	** ,***円×3 回	** ,***円	
講師謝金	** ,***円×3 回	** ,***円	
講師交通費	** ,***円×3 回	** ,***円	
情報保障費 (参加費より捻出)	** ,***円×2 回		** ,***円
情報保障費 (本部より支給)	** ,***円×1 回		** ,***円
郵送、通信費		** ,***円	
資料印刷費		** ,***円	
ホームページ維持費		** ,***円	

(初年度分) 計 ** ,***円

(次年度分) 計 ** ,***円

2 年間計 ** ,***円

<参考>

要約筆記 (チームウエストさんに依頼した場合) : ¥11000/時間+準備費¥11000/時間 (概ね開始前に30分必要となります。)

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話 (東京手話通訳など派遣センター) : 例) ¥11500/2 時間×2 名 = ¥23000 (2 時間)

※3 時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費 : 例) ¥2500~¥2700 (税別) /時間・1 人

ZOOM ウェビナー : 5600 円+消費税/1 か月

特別研究委員会名称	当事者参画とUD評価特別研究委員会
新規、継続の種別	○新規 継続
申請者（委員長） 氏名、所属	高橋儀平（東洋大学工業技術研究所）
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（自宅） 〒350-0226 埼玉県坂戸市本町 13-29 tgihei@toyo.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員 菅原麻衣子：東洋大学 谷本裕香子：東北工業大学 筒井昌美：きた建築設計 飯田和哉：日建設計 岩浦厚信：元宮崎市 永山昌彦：障害者自立応援センターYAH!DOみやざき 鈴木千春：元障大連、フリーランス 永元真也：アルメック オブザーバー委員 佐藤 聡：DPI 日本会議事務局長（東京） 高橋愛実：CIL 星空職員（四国エリア・松山市） 畑 俊彦：自立生活支援センター・てごーす（中国エリア・広島） 西村正樹：DPI 日本会議副議長（北海道エリア・札幌） 六條友聡：ぽぽんがぽん（社福）（関西エリア・茨木） 尾上浩二：NPO ちゅうぶ（大阪・関西地区の取りまとめ） オブザーバー委員の推薦理由：全国各地から幅広く障害当事者（各地の当事者リーダー的存在）に参画していただき、本学会の活動を各地で幅広く展開していく必要がある。そのためオブザーバー委員は地域性を加味して幅広く選出した。
公募枠の予定数	5名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	Ⅱ. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	・研究目的：これまでの2期4年間の未来型UD戦略特別研究委員会の諸活動を振り返り、単にUDにおける当事者参画の事例紹介だけではなく、当事者参画が建築物等の整備事業、運用にどのような効果と優位点をもたらすかについて評価・検証する。加えて2025年度に公表する国交省住宅局「建築プロジェクトにおける当事者参画ガイドライン」の推進を活動目的の一つとする。 ・主な研究事業：当事者参画が整備事業やUD整備にどのような効果をもたらすか、当事者参画で設計プロセス、設計・施工の広がり、質、技術的水準がどうアップするかについて調査研究活動事業を進める。そして、建築物等のグッドプラクティスを取集し、UD評価を行う。研究対象範囲は、各種用途（庁舎、文化・スポーツ施設、興行施設、教育施設、商業施設等）を中心に建築物生活関連施設を含むバリアフリーのまちづくり事業を含む。UDの定義については、バリアフリー、インクルーシブデザイン等で表現されるプロジェクトを総合的に包含する。

予算	<p>2025 年度</p> <p>【収入】</p> <p>本部支援費 30,000 円</p> <p>セミナー参加費 30,000 円×2 回 60,000 円</p> <p>情報保障費（参加費等外部収入より）（文字 1 回＋手話 1 回） 34,000 円</p> <p>情報保障費（本部支給）（文字 1 回＋手話 1 回） 34,000 円</p> <p style="text-align: right;">計 158,000 円</p> <p>【支出】</p> <p>講師謝金 10,000 円×4 名 40,000 円</p> <p>講師交通費 30,000 円</p> <p>情報保障費（参加費等外部収入より） 34,000 円</p> <p>情報保障費（本部支給） 34,000 円</p> <p>資料印刷、郵送、通信費、オンライン決済手数料 20,000 円</p> <p style="text-align: right;">計 158,000 円</p>
	<p>2026 年度</p> <p>【収入】</p> <p>本部支援費 30,000 円</p> <p>セミナー参加費 30,000 円×2 回 60,000 円</p> <p>情報保障費（参加費等外部収入より）（文字 1 回＋手話 1 回） 34,000 円</p> <p>情報保障費（本部支給）（文字 1 回＋手話 1 回） 34,000 円</p> <p style="text-align: right;">計 158,000 円</p> <p>【支出】</p> <p>講師謝金 10,000 円×4 名 40,000 円</p> <p>講師交通費 30,000 円</p> <p>情報保障費（参加費等外部収入より） 34,000 円</p> <p>情報保障費（本部支給） 34,000 円</p> <p>資料印刷、郵送、通信費、オンライン決済手数料 20,000 円</p> <p style="text-align: right;">計 158,000 円</p>
<p>—</p>	
<p>その他特記事項</p>	<p>情報保障費については参加費や協賛等により可能な限り外部収入で賄えるよう調整する。</p>

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年2月7日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	文化財・世界遺産のアクセシビリティに関する特別研究委員会
新規、継続の種別	継続
申請者（委員長） 氏名、所属	高橋未樹子 コマニー株式会社 研究開発課
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（職場） 〒923-8502 小松市工業団地 1-105-2 080-8996-9641 mi-takahashi@po.comany.co.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員 江守 央（日本大学 理工学部交通システム工学科） 大原 一興（横浜国立大学 名誉教授） 古瀬 敏（静岡文化芸術大学 名誉教授） 鈴木 克典（北星学園大学 経済学部経営情報学科） 関根 千佳（株式会社ユーディット会長／放送大学・美作大学客員教授） 田中 直人（島根大学） 丹羽 太一（東京大学 REDDY） 松原 淳（健やかまちづくり） ヒラヤマ アキヒト（BF アナリスト）
	オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。
	推薦理由：
公募枠の予定数	10 名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	Ⅱ. 研究・啓発展開型（予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	3年間のコロナ禍を経て、高齢世代の観光行動の活発化、海外からの観光客の急速な増大が注目を集めている。そうしたなか、合理的配慮が義務化されたことで、日本における文化財・世界遺産のハード・ソフトにおいても、さらなるアクセシビリティの整備・充実が求められている。 本研究会では「文化財・世界遺産のアクセシビリティ」について、国内外各地の状況を現地踏査含めて調査し、アクセシビリティの考え方と具体的手法について研究する。 併せて、文化財、まちづくりのアクセシビリティ事例集を各年度にとりまとめ、参考情報を広く伝える。 下記①～③の内容を協議し取りまとめるため定期的に委員会を開催し、半期に1回程度で公開研究会を開催する。また、文化財の現地見学会を企画実施する。 ①文化財・世界遺産のアクセシビリティの考え方及び具体的整備手法を研究する。 ②文化財、まちづくりに関する各地のアクセシビリティ事例を収集し、文化財アクセシビリティ 2025/2026 としてとりまとめる。 ③適宜海外事例を収集する。

予算	2025年度		
	【収入】		
	本部支援費	20,000 円	20,000 円
	セミナー参加費	10,000 円×2 回	20,000 円
	情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円
			計 84,000 円
	【支出】		
	情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円
	見学先謝金（参加費より）	10,000 円×2 回	20,000 円
	資料印刷費	7,000 円	7,000 円
	会場費（本部より）	10,000 円	10,000 円
	郵送、通信費	3,000 円	3,000 円
			計 84,000 円
	2026年度		
	【収入】		
本部支援費	20,000 円	20,000 円	
セミナー参加費	10,000 円×2 回	20,000 円	
情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円	
		計 84,000 円	
【支出】			
情報保障費（本部より）	22,000 円×2 回	44,000 円	
見学先謝金（参加費より）	10,000 円×2 回	20,000 円	
資料印刷費	7,000 円	7,000 円	
会場費（本部より）	10,000 円	10,000 円	
郵送、通信費	3,000 円	3,000 円	
		計 84,000 円	
その他特記事項			

特別研究委員会申請用紙 記入上の注意

予算については大枠でなく、下記のように具体的に示してください。

（初年度分）

【収入】

本部支援費	** ,***円	
セミナー参加費	** ,***円×3 回	** ,***円
情報保障費（本部支援）	** ,***円×1 回	** ,***円

（初年度分） 計 ** ,***円

（次年度分） 計 ** ,***円

2 年間計 ** ,***円

【支出】

会場費	** ,***円×3 回	** ,***円
講師謝金	** ,***円×3 回	** ,***円
講師交通費	** ,***円×3 回	** ,***円

情報保障費（参加費より捻出）		** ,***円×2 回	** ,***円
情報保障費（本部より支給）		** ,***円×1 回	** ,***円
郵送、通信費		** ,***円	
資料印刷費		** ,***円	
ホームページ維持費		** ,***円	

（初年度分）	計	** ,***円	
（次年度分）	計	** ,***円	

2年間計		** ,***円	

<参考>

要約筆記（チームウエストさんに依頼した場合）：¥11000/時間+準備費¥11000/時間（概ね開始前に30分必要となります。）

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話（東京手話通訳など派遣センター）：例）¥11500/2時間×2名＝¥23000（2時間）

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費：例）¥2500～¥2700（税別）/時間・1人

ZOOM ウェビナー：5600円+消費税/1か月

(この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい)

特別研究委員会名称	地域福祉のモビリティサービス特別研究委員会
新規、継続の種別	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
申請者（委員長） 氏名、所属	吉田 樹（委員長予定者） 福島大学経済経営学類／前橋工科大学学術研究院
申請者 住所、電話、 メールアドレス	(職場・自宅) 〒960-1296 福島市金谷川一番地 メール： e127@ipc.fukushima-u.ac.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員 猪井 博登（富山大）、長野 博一（高崎経済大）、福本 雅之（合同会社萬創社）、森口 将之（株式会社モビリティ） オブザーバー委員 ※会員外
	オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 推薦理由：
公募枠の予定数	10名
応募カテゴリー (該当以外のカテゴリー を削除してください。)	Ⅱ. 研究・啓発展開型 (予算上限3万円/年)
研究目的と 主な研究事業	<p><u>研究目的</u></p> <p>運転免許を保有する高齢者が増加するなか、自家用車への依存度を下げつつ、移動の自由度を高める取り組みが求められる。近年では、都市郊外部や農山村地域に限らず、都市中心部でも「交通空白」に対応したモビリティサービスの導入に向けた動きが活発になり、情報通信技術を活用したオンデマンド交通の導入のほか、MaaS (Mobility as a Service) の構築に加え、自家用車を活用した「ライドシェア」にも注目が集まる。</p> <p>しかし、こうした取り組みのなかには、実証実験に終始し、地域福祉の向上に結びついたとは言い難い事例が少なからずあり、ユーザビリティを担保しつつも、持続的なサービス提供を可能にするための「しくみ」を各地に根付かせることが重要である。</p> <p>本特別研究委員会は、情報通信技術を活用したモビリティサービスを都市や地域がどう受け止めるべきかに着目しながら、在来の公共交通や福祉交通（スペシャル・トランスポート・サービス）との有機的な連携を図るための方法論を臨症的に検討するとともに、その成果を全国各地に発信することを活動目的とする。</p> <p><u>主な活動予定</u></p> <p>(1)定例研究会の開催（年2回程度。オンライン） (2)モビリティサービスの実証フィールドの伴走支援や参与観察（委員が関与するフィールドを事例とした討議） (3)メンバーの研究成果や実践知をアウトリーチするセミナー、全国大会における研究討論会の開催（小松大会を予定）</p>
予算	(初年度分) 【収入】 本部支援費 0円 情報保障費（本部支援） 20,000円 外部資金からの充当 140,000円（代表者の研究費等） (初年度分) 計 160,000円 (次年度分) 計 160,000円（初年度と同額を見込む） ----- 2年間計 320,000円

	<p>【支出】</p> <table> <tr> <td>会場費</td> <td>50,000 円×1 回</td> <td>50,000 円</td> </tr> <tr> <td>講師謝金</td> <td>10,000 円×2 回</td> <td>20,000 円</td> </tr> <tr> <td>講師交通費</td> <td>20,000 円×2 回</td> <td>40,000 円</td> </tr> <tr> <td>情報保障費（本部より支給）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>30,200 円×1 回</td> <td>32,000 円</td> </tr> <tr> <td>郵送、通信費（Zoom ウェビナー・郵券）</td> <td></td> <td>8,000 円</td> </tr> <tr> <td>資料印刷費</td> <td></td> <td>10,000 円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">-----</td> </tr> <tr> <td>（初年度分）</td> <td>計</td> <td>160,000 円</td> </tr> <tr> <td>（次年度分）</td> <td>計</td> <td>160,000 円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">-----</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 年間計</td> <td>320,000 円</td> </tr> </table>	会場費	50,000 円×1 回	50,000 円	講師謝金	10,000 円×2 回	20,000 円	講師交通費	20,000 円×2 回	40,000 円	情報保障費（本部より支給）				30,200 円×1 回	32,000 円	郵送、通信費（Zoom ウェビナー・郵券）		8,000 円	資料印刷費		10,000 円	-----			（初年度分）	計	160,000 円	（次年度分）	計	160,000 円	-----				2 年間計	320,000 円
会場費	50,000 円×1 回	50,000 円																																			
講師謝金	10,000 円×2 回	20,000 円																																			
講師交通費	20,000 円×2 回	40,000 円																																			
情報保障費（本部より支給）																																					
	30,200 円×1 回	32,000 円																																			
郵送、通信費（Zoom ウェビナー・郵券）		8,000 円																																			
資料印刷費		10,000 円																																			

（初年度分）	計	160,000 円																																			
（次年度分）	計	160,000 円																																			

	2 年間計	320,000 円																																			
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学会からの財政的支援は、専ら情報保障にあて、それ以外の経費については、外部資金（代表者の研究費等）で支弁する予定です。 ・推薦委員に幹事をお願いし、活動の活性化に結び付けたいと考えております。 																																				

<参考>

要約筆記（チームウエストさんに依頼した場合）：¥11000/時間+準備費¥11000/時間（概ね開始前に30分必要となります。）

※東京手話通訳等派遣センターに依頼するともう少し高額となります。

手話（東京手話通訳など派遣センター）：例）¥11500/2時間×2名＝¥23000（2時間）

※3時間を超えると派遣人数も増えます。

保育費：例）¥2500～¥2700（税別）/時間・1人

ZOOM ウェビナー：5600円+消費税/1か月

日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会（第7期）申請用紙 提出日：2025年 2月 7日
 （この用紙は、適宜伸縮したり複数ページにまたがったりしてもよい）

特別研究委員会名称	共生 DX 特別研究委員会
新規、継続の種別	継続
申請者（委員長） 氏名、所属	須田裕之 （筑波技術大学名誉教授、 須田技術士事務所代表）
申請者 住所、電話、 メールアドレス	（職場・自宅） 住 所：〒311-4151 茨城県水戸市姫子1-119-18 電 話：090-8591-4129 e-mail： h.suda@sweet.ocn.ne.jp
委員長推薦委員と所属	推薦委員：8名（順不同） 吉田 要：のらくろード商店街理事（共生社会チーム） 高橋 徹：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 谷田光一：日本弱者者ネットワーク 市川浩明：NPO 法人ことばの道案内 長岡 豪：ジョルダン株式会社執行役員 営業技術部長 原 利明：鹿島建設株式会社 建築設計本部 鈴木克典：北星学園大学 土橋喜人：金沢工業大学
	オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。
	推薦理由：
公募枠の予定数	10 名
応募カテゴリー （該当以外のカテゴリー を削除してください。）	Ⅱ. 研究・啓発展開型 （予算上限3万円/年）
研究目的と 主な研究事業	<p>【研究目的】 本「共生 DX 特別研究委員会」では、社会的にデジタル化が進む中で、多様な障害者支援に関わるアプリケーションの連携活用を検討する。特に、当事者の活用の際しての困りごと、課題を実証により抽出、パーソナル性に応じた検討を行う。ユーザ属性に合った、アプリのマッチング、情報提供を検討する。また、併せて共生 DX（デジタルトランスフォーメーション）における仕組みおよびプラットフォーム構成の課題を検討する。</p> <p>1. アプリ実証検討 引き続き、アプリ利用での困りごとを抽出のため、商店街を例として地域のまちづくりの中で多種のアプリも含めた分野連携を行い、当事者意見によるフィードバックを検討する。特に、個別アプリだけでなく、誘導支援、ショッピング等連携することの便利さ、困りごとを整理する。</p> <p>2. DX での連携のための仕組み検討 多様な分野でのアプリの連携とその境界サービスを提供、開発することを目的とする。ここでは、連携するための仕組みづくりとして、「情報プラットフォーム」と「ハードウェアプラットフォーム」について検討する。</p> <p>（1）情報プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リアルタイム、オフタイムでの必要な情報整理と更新提供 ・ 多様な困りごとに対する、ユーザ属性の収集とマッチング ・ パーソナルユーザとしてのサービス展開 <p>等、最近ではデジタル障害者手帳（ミライロ）、マイナポータルとの連携等共通ミドルウェアを整理する。</p>

	<p>(2) ハードウェアプラットフォーム スマートフォンおよび Web による情報提供を考え、ユーザ属性および使用環境での端末の在り方を考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IOs およびグーグルによる、アクセシビリティ機能の検討と課題 ・ 歩きスマホによる安全性の課題 ・ 高齢者、障害者向けの利用体験、普及セミナー ・ 多様なヒューマンインタフェースの在り方 <p>等 支援のためのパーソナルゲートウェイ（情報、データの変換機能ツール）としての整理を検討する。</p> <p>実証については、のらくろード商店街での、多様なアプリを使用していることによる、生活空間での支援 DX としての検討を実施する。共生 DX の仕組みづくりでは共通ミドルウェア開発者、通信機器メーカー等からの支援いただき、将来的な方向性についても検討する。</p>
<p>予算</p>	<p>(初年度分)</p> <p>【収入】</p> <p>本部支援費 30,000 円 セミナー・勉強会参加費 オンライン実施として検討要 情報保障費（本部支援） 23,000 円× 1回 23,000円</p> <p>(初年度分) 計 53,000 円</p> <p>(次年度分) 計 53,000 円</p> <p>-----</p> <p>2年間計 106,000 円</p> <p>【支出】</p> <p>講師謝金 10,000 円×2 人 20,000 円 実証実験準備費 10,000 円× 1回 10,000 円 情報保障費（本部より支給） 23,000 円×1 回 23,000 円</p> <p>-----</p> <p>(初年度分) 計 56,000 円</p> <p>(次年度分) 計 53,000 円</p> <p>-----</p> <p>2年間計 106,000 円</p>
<p>その他特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー等は極力オンラインによる実施とし、広く参加者を求める。 ・実証実験については、商店街、行政等への協力、支援を求める。 ・ユーザ属性にあった、アプリケーションのマッチングおよび情報提供については、厚生労働省 障害者 ICT サポート総合推進事業（地域生活支援促進事業）等の活動との連携を試みる。 <p>(以上)</p>

特別研究委員会名称	情報実践教育プログラム特別研究委員会
新規、継続の種別	○新規 継続
申請者（委員長） 氏名、所属	田中直人 島根大学
申請者 住所、電話、 メールアドレス	(職場・自宅) 〒655-0047 神戸市垂水区東舞子町 10-1-1801 (職場・自宅) t-naoto@riko.shimane-u.ac.jp
委員長推薦委員と所属	[推薦委員]（五十音順） 委員：安部信行（八戸工業大学） 委員：池田典弘（池田技術士事務所） 委員：老田智美（公立鳥取環境大学） 委員：大森清博（兵庫県立福祉のまちづくり研究所） 委員：北川博巳（近畿大学） 委員：久保雅義（芸術文化観光専門職大学） 委員：須田裕之（筑波技術大学名誉教授） 委員：武者 圭（Universal Design Network Japan） 委員：柳原崇男（近畿大学） オブザーバー委員を推薦する場合はその理由を記入すること。 推薦理由：
公募枠の予定数	5 名
応募カテゴリー (該当以外のカテゴリー を削除してください。)	I. スタートアップ型 (予算上限 2 万円/年) ○ II. 研究・啓発展開型 (予算上限 3 万円/年) III. シンポ・出版展開型 (予算上限 5 万円/年)
研究目的と 主な研究事業	第1部である第1～4期では「サイン環境特別委員会」として、主に視覚障害のある方にわかりやすく扱いやすいサインについての研究を進めてまいりました。生活環境における案内サインの、主として現状と課題について研究を進め、その結果、視覚のみならず五感と言われる感覚刺激の活用の重要性やデザインとしての可能性を探ることができました。 第2部である第5～6期では「人にやさしい情報環境特別委員会」として、これまでのアナログからかわるデジタル技術を応用した情報伝達の重要性や必要性、多様な人間特性の基本にした環境デザインのあり方を、これまで毎年全国大会において研究討論会を企画し、多くの関係者の注目と関心を頂いており、今後の課題として、さらに広く、深く多岐にわたる研究活動として、展開していくことが必要と考えます。しかし、社会におけるこれまでの情報環境では、だれにでも分かるサイン環境が出来ているわけではありません。また、技術が発展しても犯罪などのマイナス面の事由が発生し、新たに多くの問題や課題が指摘されている状況です。 これに対応すべく、第7期の研究を第3部として、これまでの成果をさらにスパイラルアップすることを目指していきたく考えています。これまでの理論のみならず実践を取り入れる研究を進めていき、その成果を広範な利用者層に向けた実践の教育プログラムとしての社会実験や、わかりやすくこれまでの科学技術を導入した真にやさしい手法をシンポジウム、出版等で提案していきます。本特別研究委員会では、これまでの委員にこだわらず広く公募し、多様な福祉のまちづくりを担う戦略的手法を見出そうとするものです。第7期にあたり、過去の成果に留まらずリアルな研究活動の展開を図り、プロセスとしてそれまでに関わった委員各位に宿題を課し、その内容を精査した上で、次の研究活動のエンジン、エネルギーとして期待するものであります。

予算	(初年度分)		
	【収入】	(初年度)	(次年度)
	本部支援費	30,000 円	30,000 円
	セミナー参加費	10,000 円×1 回	15,000 円×1 回
	情報保障費 (本部支援)	36,300 円(3 時間分)	36,300 円(3 時間分)
	(初年度分)	計	76,300 円
	(次年度分)	計	81,300 円

	2 年間計		157,600 円
	【支出】	(初年度)	(次年度)
	会場費	20,000 円×1 回	20,000 円×1 回
	講師謝金	10,000 円	10,000 円
	講師交通費	10,000 円	10,000 円
	情報保障費	36,300 円(3 時間分)	36,300 円(3 時間分)
資料印刷費		5,000 円	
(初年度分)	計	76,300 円	
(次年度分)	計	81,300 円	

2 年間計		157,600 円	
その他特記事項			